

酒田市公共下水道事業計画書

(酒田処理区)

公共下水道管理者

酒 田 市

工事着手の年月日

昭和 45 年 12 月 14 日

工事完成の予定年月日

平成 36 年 3 月 31 日

令和 9 年 3 月 31 日

酒田市公共下水道事業計画書

目 次

第1表の1	予定処理区域調書（合流、分流汚水）	1
第1表の2	予定排水区域調書（分流雨水）	1
第3表の1	吐口調書（合流）	3
第3表の2	吐口調書（分流雨水）	4
第4表の1	管渠調書（合流）	5
第4表の2	管渠調書（分流汚水）	5
第4表の3	管渠調書（分流雨水）	6
第5表	処理施設調書	8
第6表	ポンプ施設調書	11
第7表	貯留施設調書	14
	（様式1）施設の設置に関する方針	16
	（様式2）施設の機能の維持に関する方針	17
	（様式3）財政計画書	20

第1表の1

赤：変更前
黒：変更後

予 定 処 理 区 域 調 書 (合流・分流汚水)			
予定処理区域の面積	約1,681ヘクタール 約2,217ヘクタール	予定処理区域内の地名	山形県 酒田市 「区域は下水道計画一般図表示のとおり」
処理区の名称	面積 (単位 ヘクタール)	摘 要	
酒 田 処 理 区	約1,681 約2,217	中央処理分区 (合流式) 約313ha 南部処理分区 (分流式) 約814ha 約1,350ha 北部処理分区 (分流式) 約554ha	

第1表の2 (1/2)

赤：変更前
黒：変更後

予 定 排 水 区 域 調 書 (分流雨水)			
予定排水区域の面積	約844ヘクタール 約929ヘクタール	予定排水区域内の地名	山形県 酒田市 「区域は下水道計画一般図表示のとおり」
排水区の名称	面積 (単位 ヘクタール)	摘 要	
北新橋排水区	約13		
札谷地排水区	約25		
大多排水区	約8		
古荒排水区	約68		
東栄排水区	約31		
若浜排水区	約20		
本溝排水区	約37		
光ヶ丘第1排水区	約108		

第1表の2 (2/2)

赤：変更前
黒：変更後

予 定 排 水 区 域 調 書 (分 流 雨 水)			
予定排水区域の 面 積	約 844 ヘクタール 約 929 ヘクタール	予定排水区域内の 地 名	山形県 酒田市 「区域は下水道計画一般図 表示のとおり」
排 水 区 の 名 称	面 積 (単位 ヘクタール)	摘 要	
家際第1排水区	約 64		
家際第2排水区	約 33		
酒井新田第1排水区	約 23		
酒井新田第2排水区	約 57		
酒井新田第3排水区	約 1		
酒井新田第4排水区	約 13		
亀ヶ崎第1排水区	約 60		
亀ヶ崎第3排水区	約 9		
若竹排水区	約 36		
山居排水区	約 16		
入船排水区	約 11		
堤排水区	約 9		
宮海第2排水区	約 13		
宮海第3排水区	約 45		
高砂排水区	約 146		
— 観音寺排水区	— 約 49		
— 市条排水区	— 約 36		

第3表の1

赤：変更前
黒：変更後

吐 口 調 書 (合 流)							
処理区の名 称	主 要 な 吐口の種類	主要な吐口 の番号又は 名 称	主要な吐口 の 位 置	計画放流量 (m ³ /sec)	放流先の 名 称	放流先の 水 位	摘 要
酒 田 処理区	ポンプ施設	吐口 No.1	船場町二丁目	4.237 4.235	酒田港	計画高水位 +1.413m	中央処理分区の 第3分区 堰の嵩上げ
	合流式雨水 吐室	吐口 No.2	本町三丁目	8.511 8.506	酒田港	計画高水位 +1.500m	中央処理分区の 第4分区 堰の嵩上げ スクリーン設置
	合流式雨水 吐室	吐口 No.3	本町一丁目	2.883 2.882	新井田川	計画高水位 +1.660m	中央処理分区の 第5分区 スクリーン設置
	合流式雨水 吐室	吐口 No.4 (新井田樋管)	浜田一丁目	3.202 3.201	新井田川	計画高水位 +2.307m	中央処理分区の 第6分区 スクリーン設置 — 点検方法：目視 — 点検頻度：1回/年
	ポンプ施設	吐口 No.5 (浜田樋門)	浜田二丁目	7.145 7.141	新井田川	計画高水位 +2.485m	中央処理分区の 第7,8分区 堰の嵩上げ — 点検方法：目視 — 点検頻度：1回/年
	処理施設 ポンプ施設	吐口 No.6 (旭新町排水樋門)	東泉町二丁目	10.848 10.577	新井田川	計画高水位 +2.741m	中央処理分区の 第9,10分区 (家際ポンプ場系) 9.100m ³ /s 9.095m ³ /s 雨天時汚水量 (中央処理分区 第1~10分区) 1.485m ³ /s 1.339m ³ /s 分流汚水量(日最大) 0.263m ³ /s 0.143m ³ /s — 点検方法：目視 — 点検頻度：1回/年

第3表の2

赤：変更前
黒：変更後

吐 口 調 書 (分流雨水)							
排水区の 名 称	主 要 な 吐口の種類	主要な吐口 の番号又は 名 称	主要な吐口 の 位 置	計画放流量 (m ³ /sec)	放流先の 名 称	放流先の 水 位	摘 要
札谷地排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.7	北新橋一丁目	3.356	新井田川		
大多排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.8	新橋二丁目	2.716	新井田川		
古荒排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.9	新橋一丁目	8.406	新井田川		
東栄排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.10	東栄町	6.364	新井田川		
本溝排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.11	東中の口町	17.405	新井田川		
家際第1排水区	ポンプ施設	吐口 No.12 (安達排水樋門)	東泉町二丁目	5.708	新井田川	計画高水位 +2.775m	点検方法：目視 点検頻度：1回/年
酒井新田 第1排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.13	東泉町六丁目	2.825	幸福川		
亀ヶ崎 第1排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.14	亀ヶ崎一丁目	8.999	新井田川		
家際第2排水区	ポンプ施設	吐口 No.15 (家際第二樋管)	東泉町二丁目	3.390	幸福川	計画高水位 +2.741m	点検方法：目視 点検頻度：1回/年
酒井新田 第2排水区	ポンプ施設	吐口 No.17	ゆたか三丁目	3.572	豊川	計画高水位 +1.809m	
若浜排水区	ポンプ施設	吐口 No.18 (若浜雨水樋管)	東栄町	2.591	新井田川	計画高水位 +2.180m	点検方法：目視 点検頻度：1回/年
光ヶ丘 第1排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.19	大浜二丁目	2.422	既存水路		
高砂排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.20	宮海	17.844	豊川		
宮海第3排水区	分流式 雨水管渠	吐口 No.21	宮海	3.323	既存水路		
— 観音寺排水区	— 分流式 雨水管渠	— 吐口 No.1	— 小泉字中川原	— 5.310	— 既存水路		
— 市条排水区	— 分流式 雨水管渠	— 吐口 No.2	— 法連寺字川原	— 3.831	— 既存水路		

第4表の1

赤：変更前

黒：変更後

管 渠 調 書 (合 流)				
処理区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位 ミリメートル)	延 長 (単位 メートル)	点検 箇所 の数	摘 要
酒田処理区 (中央処理分区)	○ 300～ ○ 2,200	11,450		
	□ 2,100×1,260 ～ □ 3,000×1,800	210		
	計	11,660		

第4表の2

赤：変更前

黒：変更後

管 渠 調 書 (分 流 汚 水)				
処理区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位 ミリメートル)	延 長 (単位 メートル)	点検 箇所 の数	摘 要
酒田処理区 (北部処理分区)	○ 100～ ○ 800	14,500	8	方法：地上およびマンホール内からの管内目視 頻度：5年に1回以上
酒田処理区 (南部処理分区)	○ 200～ ○ 1,200 ○ 75～ ○ 1,200	15,220 53,540	3 7	方法：地上およびマンホール内からの管内目視 頻度：5年に1回以上
	計	29,720 68,040	11 15	

第4表の3 (1/2)

赤：変更前
黒：変更後

管 渠 調 書 (分 流 雨 水)				
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位 ミリメートル)	延 長 (単位 メートル)	点検 箇所 の数	摘 要
家際第1排水区	□ 1,800×1,500 ～□ 2,000×1,500	420		
	▽/ 3,900×2,150×1,750 ～▽/ 4,900×3,150×1,750	1,030		
	計	1,450		
札谷地排水区	□ 3,000×1,500	30		
	▽/ 3,000×2,200×1,500	480		
	計	510		
大多排水区	□ 1,400×1,000	20		
	▽/ 3,700×2,900×1,200 ～▽/ 3,700×3,000×1,300	550		
	計	570		
古荒排水区	□ 2,500×1,500 ～□ 4,000×1,400	340		
	□ 1,500×1,500 ～□ 4,000×1,400	580		
	計	920		
東栄排水区	□ 1,500×1,500 ～□ 1,800×1,800	950		
	□ 1,800×1,800	10		
	計	960		
本溝排水区	□ 2,900×1,740 ～□ 4,000×2,400	1,400		
	□ 2,750×2,500	20		
	計	1,420		
亀ヶ崎第1排水区	□ 1,600×1,600 ～□ 3,000×1,600	850		
	□ 1,700×1,700 ～□ 3,000×1,500	120		
	▽/ 3,500×2,500×2,000	100		
	計	1,070		

第4表の3 (2/2)

赤：変更前
黒：変更後

管 渠 調 書 (分 流 雨 水)				
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位 ミリメートル)	延 長 (単位 メートル)	点検 箇所 の数	摘 要
酒井新田 第1排水区	┆ 1,000×1,470 ～┆ 1,000×1,570	90		
	┆ 1,250×1,250 ～┆ 1,500×1,500	30		
	計	120		
酒井新田 第2排水区	┆ 1,200×1,000 ～┆ 1,900×1,000	400		
	┆ 1,000×1,000 ～┆ 1,600×1,400	670		
	○ 800	50		
	計	1,120		
家際第2排水区	┆ 1,600×1,600 ～┆ 2,000×1,200	310		
	計	310		
光ヶ丘第1排水区	○ 1,000～○1,650	1,580		
	┆ 1,000×1,000	240		
	計	1,820		
宮海第3排水区	○ 2,000	980		
	┆ 1,800×1,800 ～┆ 1,800×2,000	150		
	計	1,130		
高砂排水区	○ 1,650～○2,400	1,180		
	┆ 2,700×2,700 ～┆ 3,000×3,000	1,220		
	計	2,400		
— 観音寺排水区	— ┆ 1,200×1,000 ～┆ 2,000×1,200	— 1,690		
— 市条排水区	○ 1,100～○1,200	260		
	— ┆ 1,000×1,000 ～┆ 1,400×1,400	— 220		
	— ┆ 1,200×1,200 ～┆ 1,500×1,600	— 590		
	計	— 1,070		

第5表 (1/3)

赤：変更前

黒：変更後

処理施設調書								
終末処理場等の名称	位置	敷地面積 (単位 ヘクタール)	計画放流水質 (mg/ℓ)	処理方法	処理能力		計画処理人口 (人)	摘要
					晴天日最大 (単位 立方メートル)	雨天日最大 (単位 立方メートル)		
酒田市クリーンセンター	酒田市東泉町二丁目	7.21	15	標準活性汚泥法	合流 — 分流 22,700	合流 128,300 分流 22,700	合流 10,700 10,100 分流 43,700 51,900 計 54,400 62,000	事業計画下水量 (晴天日最大) 合流 10,100m ³ /日 9,300m ³ /日 分流 18,100m ³ /日 20,200m ³ /日 計 28,200m ³ /日 29,500m ³ /日 合流 全体計画下水量 (晴天日最大) 合流 7,900m ³ /日 7,000m ³ /日 分流 15,500m ³ /日 17,900m ³ /日 計 23,400m ³ /日 24,900m ³ /日 計画流入水質 BOD 185mg/ℓ 202mg/ℓ S S 169mg/ℓ 186mg/ℓ 計画目標水質 BOD 15mg/ℓ S S 20mg/ℓ
終末処理場等の敷地内の主要な施設								
終末処理場等の名称	主要な施設の名称	個数	構造	能力	摘要			
酒田市クリーンセンター	汚水沈砂池 (合流用)	2池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 (雨天時) 約 1,659m ³ /m ² ・日	2/2			
	主ポンプ (合流用)	4台	立軸斜流ポンプ	揚水量 約 90m ³ /分	4/4			
	汚水沈砂池 (分流用)	2池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 約 2,700m ³ /m ² ・日	2/2			
	主ポンプ (分流用)	3台	立軸斜流渦巻ポンプ	揚水量 約 35m ³ /分	3/4			

第5表 (2/3)

赤：変更前
黒：変更後

終末処理場等の敷地内の主要な施設					
終末処理場等の名称	主要な施設の名称	個数	構造	能力	摘要
酒田市 クリーン センター	最初沈殿池 (合流用)	4系列	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷 約17m ³ /m ² ・日 約16m ³ /m ² ・日	4/4
	エアレーションタンク (合流用)	2系列	鉄筋コンクリート 造り	エアレーション時間 約9時間 約10時間	2/2
	最終沈殿池 (合流用)	2系列	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷 約17m ³ /m ² ・日 約16m ³ /m ² ・日	2/2
	塩素混和池 (合流用)	2池	鉄筋コンクリート 造り	接触時間 約22分(雨天時)	2/2
	最初沈殿池 (分流用)	3系列	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷 約30m ³ /m ² ・日 約26m ³ /m ² ・日(第1系列) 約41m ³ /m ² ・日 約35m ³ /m ² ・日(第2,3系列)	1/1 2/2
	エアレーションタンク (分流用)	3系列	鉄筋コンクリート 造り	エアレーション時間 約10時間 約9時間	3/3
	最終沈殿池 (分流用)	3系列	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷 約15m ³ /m ² ・日 約17m ³ /m ² ・日(第1系列) 約16m ³ /m ² ・日 約18m ³ /m ² ・日(第2,3系列)	1/1 2/2
	塩素混和池 (分流用)	1池	鉄筋コンクリート 造り	接触時間 約31分 約28分	1/1
	送風機	5台	多段ターボブロア	送風量 約117m ³ /分・台 約123m ³ /分・台	5/5
	汚泥濃縮 タンク	1槽	鉄筋コンクリート 造り	固形物負荷 約34kg/m ² ・日 約39kg/m ² ・日(合流・分流)	1/1
	機械濃縮機	2基		固形物負荷 約25kg/m ² ・時	2/2
	汚泥消化 タンク	2槽	鉄筋コンクリート 造り	消化日数 約34日 約33日	2/2
	ガスタンク	1基		容量 約1,230m ³ 約900m ³	1/1
	汚泥貯留槽	2槽	鉄筋コンクリート 造り	貯留日数 約4日	2/2
	汚泥脱水機	3台		処理量 3.357 tDs/日 3.432 tDs/日(合流・分流)	3/3
	管理棟	1棟	鉄筋コンクリート 造り	中央管理室、電気室、事務室、 水質試験室、送風機室、発電機室	

第5表 (3/3)

赤：変更前
黒：変更後

終末処理場等の敷地内の主要な施設					
終末処理場等の名称	主要な施設の名称	個数	構造	能力	摘要
酒田市 クリーン センター	水処理電気棟	1棟	鉄筋コンクリート造り	電気室、発電機室	
	汚泥処理棟	1棟	鉄筋コンクリート造り	脱水機室、電気室	MICS事業
	機械濃縮棟	1棟	鉄筋コンクリート造り		MICS事業
	沈砂池・ポンプ棟 (合流)	1棟	鉄筋コンクリート造り		
	沈砂池・ポンプ棟 (分流)	1棟	鉄筋コンクリート造り		
	水処理施設 (合流) 覆蓋	1棟	鉄筋コンクリート造り		
	水処理施設 (分流) 覆蓋	1棟	鉄筋コンクリート造り		
	塩素滅菌棟	1棟	鉄筋コンクリート造り		
摘要	農業集落排水等 (17 地区) 汚泥を機械濃縮に受入れ処理する。 八幡浄化センター 15.3m ³ /日 — — 農業集落排水等 (23 地区) 30.0m ³ /日 (17 地区) 19.1m ³ /日 受入汚泥合計 45.3m ³ /日 19.1m ³ /日				

第6表 (1/3)

赤：変更前

黒：変更後

ポンプ施設調書						
ポンプ施設の名称	処理区の名称	ポンプ施設の位置	敷地面積 (単位ヘクタール)	1分間の揚水量 (単位立方メートル)		摘要
				晴天時最大	雨天時最大	
船場町中継ポンプ場	酒田処理区	船場町二丁目	0.323	1.74 1.50	汚 15.48 雨 254.22 254.10	合流式区域
若浜中継ポンプ場	酒田処理区	若浜町	0.536	5.34 4.68	汚 48.60	合流式区域
浜田中継ポンプ場	酒田処理区	浜田二丁目	0.216	1.98 1.74	汚 18.00 雨 428.70 428.46	合流式区域
家際雨水ポンプ場	酒田処理区	東泉町二丁目	処理場敷地内	—	雨 546.00 545.70	合流式区域
北部雨水ポンプ場	家際第1排水区	東泉町二丁目	0.034	—	雨 342	分流式区域
光ヶ丘中継ポンプ場	酒田処理区	光ヶ丘三丁目	0.284	2.66 2.18	—	分流式区域
—	—	—	—	—	—	—
小泉中継ポンプ場	酒田処理区	小泉字道南	0.005	1.50	—	分流式区域
—	—	—	—	—	—	—
市条中継ポンプ場	酒田処理区	市条字荒瀬	0.005	0.59	—	分流式区域
ポンプ施設の敷地内の主要な施設						
ポンプ施設の名称	主要な施設の名称	数	構造	能力		摘要
船場町中継ポンプ場	雨水沈砂池	3池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 約5,200m ³ /m ² 日		3/3
	汚水沈砂池	1池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷	晴 約350m ³ /m ² ・日 約300m ³ /m ² ・日 雨 約3,100m ³ /m ² ・日	1/1
	雨水ポンプ	3台	立軸斜流ポンプ	約40m ³ /分・台 約91m ³ /分・台		2/2 1/1
	汚水ポンプ	3台	立軸斜流渦巻ポンプ	約5m ³ /分・台 約9m ³ /分・台		2/2 1/1
	上屋	1棟	鉄筋コンクリート造り			

第6表 (2/3)

赤：変更前
黒：変更後

ポンプ施設の敷地内の主要な施設					
ポンプ施設の名称	主要な施設の名 称	数	構 造	能 力	摘要
若浜中継 ポンプ場	汚水沈砂池	2池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 晴 約 710m ³ /m ² ・日 約 620m ³ /m ² ・日 雨 約 2,800m ³ /m ² ・日	2/2
	汚水ポンプ	4台	立軸斜流渦巻ポンプ	約 5m ³ /分・台 約 21m ³ /分・台	2/2 2/2
	上 屋	1棟	鉄筋コンクリート造り		
浜田中継 ポンプ場	雨水沈砂池	3池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 約 6,600m ³ /m ² ・日	3/3
	汚水沈砂池	1池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 晴 約 90m ³ /m ² ・日 約 80m ³ /m ² ・日 雨 約 830m ³ /m ² ・日	1/1
	雨水ポンプ	4台	立軸斜流ポンプ	約 59m ³ /分・台 約 67m ³ /分・台	1/1 3/3
	汚水ポンプ	2台	立軸斜流渦巻ポンプ	約 20m ³ /分・台	2/2
	上 屋	1棟	鉄筋コンクリート造り		
家際雨水 ポンプ場	雨水沈砂池	3池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 約 6,240m ³ /m ² ・日	3/3
	雨水ポンプ	4台	立軸斜流ポンプ	約 50m ³ /分・台 約 95m ³ /分・台 約 105m ³ /分・台	1/1 1/1 2/2
	上 屋	1棟	鉄筋コンクリート造り		
北部雨水 ポンプ場	雨水ポンプ	3台	立軸斜流ポンプ	約 114m ³ /分・台	3/3
	上 屋	1棟	鉄筋コンクリート造り		
光ヶ丘中継 ポンプ場	汚水ポンプ	3台	吸込スクリー式	約 1m ³ /分・台 約 2m ³ /分・台	1/1 2/2
	上 屋	1棟	鉄筋コンクリート造り		

第6表 (3/3)

赤：変更前
黒：変更後

ポンプ施設の敷地内の主要な施設					
ポンプ施設の名称	主要な施設の名称	数	構造	能力	摘要
小泉中継ポンプ場	ポンプ場建屋	1棟	鉄筋コンクリート造り	ポンプピット内 滞留時間 約6分	
	汚水ポンプ	2台	水中汚水ポンプ	$\phi 150 \times 2.31 \text{m}^3/\text{分}$	2/2
	自家発電設備	1台		85 kVA	1/1
市条中継ポンプ場	汚水ポンプ	2台	水中汚水ポンプ	$\phi 65 \times 0.84 \text{m}^3/\text{分}$	2/2
	自家発電設備	1台		85 kVA	1/1

第7表 (1/2)

赤：変更前
黒：変更後

貯留施設調書				
処理区の名称	主要な貯留施設の名称	主要な貯留施設の位置	貯留能力 (単位：立方メートル/ヘクタール・分)	摘要
酒田処理区	雨水浸透ます	幸町、浜田、新井田町、 上本町、本町、船場町、 南新町、北新町、北今町、 北里町、南千日町 御成町、相生町、一番町、 二番町、中町、日吉町、 栄町、中央東町、中央西町、 寿町	約0.190	設置する目的 合流式下水道の 改善 整備区域面積 259ha 設置数量 3,594箇所

第7表 (2/2)

赤：変更前
黒：変更後

貯留施設調書				
処理区の名称	主要な貯留施設の名称	主要な貯留施設の位置	貯留能力 (単位： 立方メートル)	摘要
酒田処理区	雨水貯留槽	御成町	約 410	設置する目的 第10分区の一部 の浸水解消を図る ため 整備区域面積 第10分区の一部 25.78ha 設置数量 1箇所
酒田処理区	雨水貯留槽	栄町	約 710	設置する目的 第4分区の一部 の浸水解消を図る ため 整備区域面積 第4分区の一部 設置数量 1箇所
酒田処理区	雨水貯留槽	浜田	約 3,400	設置する目的 第7分区の一部 の浸水解消を図る ため 整備区域面積 第7分区の一部 設置数量 1箇所
酒田処理区	雨水貯留槽	酒井新田	約 6,000	設置する目的 北部処理分区の一 部の浸水解消を図 るため 整備区域面積 北部処理分区の一 部 設置数量 1箇所

(様式1) 施設の設置に関する方針

赤：変更前

黒：変更後

主要な 施策	整備水準				事業の重点化 ・効率化の方針	中期目標を 達成するための 主要な事業	備考	
	指標等	現在 (平成28年度末) (令和2年度末)	中期目標 (令和22年度末)	長期目標				
汚水処理	下水道 処理人口 普及率	55.8% 57.0%	57.0% 73.2%	57.0% 73.2%	人口密度が高い地域 から優先的に整備を 実施する。	管渠整備事業	生活排水処理 施設基本構想 と整合を図る	
浸水対策	浸水対策 達成率 (50.4 mm/hr)	33.0% 43.0%	44.3% 45.9%	100%	既存水路等のストック を活用し、効率的 な整備を図る。	雨水幹線整備事業		
汚泥の 再生利用	有効利用された割合	100%	100%	100%	民間による下水汚泥 発酵肥料 (YM 菌) 化の民間委託による 処分を実施してい る。	コンポスト事業		
耐水化	水害時における機能確保率	処理場	揚水機能が 確保された 施設数	—	—	—		
			沈殿機能が 確保された 施設数	—	—	—		
			汚泥処理機 能が確保さ れた施設数	—	—	—		
		ポンプ場 (汚水)	揚水機能が 確保された 施設数	—	—	—		
		ポンプ場 (合流・雨水)	揚水機能が 確保された 施設数	0% (0)	30% (1)	100% (3)	対象施設の位置で想 定浸水深が最も大き くなる外力が異なる ため、重要度や被災 時の影響範囲等から 対策浸水深を設定し 耐水化を図る。	下水道施設耐水化事 業
耐震化	災害時における機能確保率	重要な幹線等		—	—	—		
		下水処理場		—	—	—		
		ポンプ場		—	—	—		

備考1 下水道処理人口普及率：下水道整備人口 56,774 人 ÷ 行政人口 99,537 人 × 100 = 57.0% (令和2年度末)

備考2 下水道処理人口普及目標値：全体計画人口 53,900 人 ÷ 行政人口 73,675 人 × 100 = 73.2% (令和22年度末)

備考3 雨水整備水準：雨水整備面積 822.91ha ÷ 雨水計画面積 1,915.50ha × 100 = 43.0% (令和2年度末)

備考4 雨水整備水準目標値：雨水整備面積 879.66ha ÷ 雨水計画面積 1,915.50ha × 100 = 45.9% (令和22年度末)

(様式2) 施設の機能の維持に関する方針

a) 主要な施設に係る主な措置

i) 計画的な点検・調査の頻度

赤：変更前
黒：変更後

主要な施設	点検・調査の頻度
管渠施設	施設の重要度等に応じて、概ね5年～20年に一度点検を実施。 点検の結果、異状の可能性のある箇所についてテレビカメラ等による調査を実施。 施設の重要度等に応じて、概ね5年～25年に一度点検を実施。 点検の結果、異状の可能性のある箇所についてテレビカメラ等による調査を実施。
沈砂池施設（スクリーンかす設備）	概ね15年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
沈砂池施設（汚水沈砂設備）	概ね15年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
沈砂池施設（雨水沈砂設備）	概ね20年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
ポンプ施設（汚水ポンプ設備）	概ね15年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
ポンプ施設（雨水ポンプ設備）	概ね20年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
水処理施設（送風機本体）	概ね20年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
汚泥処理施設 （汚泥消化タンク・ガスタンク）	概ね8～15年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
汚泥処理施設（汚泥脱水設備）	概ね15年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
付帯設備（脱臭設備）	概ね10～20年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
水処理施設（躯体・付帯設備）	概ね10～50年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
ポンプ場施設（躯体・付帯設備）	概ね10～50年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。
電気計装設備	概ね15年で調査を実施して、修繕・改築の必要性を検討。 日常点検及びメーカーによる年次点検で異状を確認した場合には、分解調査を実施。

ii) 診断結果を踏まえた修繕・改築の判断基準

赤：変更前

黒：変更後

主要な施設	修繕・改築の判断基準
管渠施設	緊急度Ⅱ以下のものを修繕・改築の対象とする。
沈砂池施設（スクリーンかす設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
沈砂池施設（汚水沈砂設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
沈砂池施設（雨水沈砂設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
ポンプ施設（汚水ポンプ設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
ポンプ施設（雨水ポンプ設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
水処理施設（送風機本体）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
汚泥処理施設 （汚泥消化タンク・ガスタンク）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
汚泥処理施設（汚泥脱水設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
付帯設備（脱臭設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
水処理施設（躯体・付帯設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
ポンプ場施設（躯体・付帯設備）	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。
電気計装設備	状態監視保全として、健全度2以下で改築を実施。

備考：目標耐用年数は、『下水道事業のストックマネジメント実施に関するガイドライン-2015年版-平成27年11月 国土交通省』p13に記載されている目標耐用年数の設定例を参考としている。

iii) 改築事業の概要

(平成 29 年度～平成 35 年度)

(平成 3 年度～令和 8 年度)

赤：変更前

黒：変更後

主要な施設	改築事業の概要
管渠施設	管渠改築 φ200～700mm L=約 1.0km
沈砂池施設 (スクリーンかす設備)	なし
沈砂池施設 (汚水沈砂設備)	なし
沈砂池施設 (雨水沈砂設備)	なし
ポンプ施設 (汚水ポンプ設備)	なし
ポンプ施設 (雨水ポンプ設備)	なし
水処理施設 (送風機本体)	なし
汚泥処理施設 (汚泥消化タンク・ガスタンク)	なし
汚泥処理施設 (汚泥脱水設備)	汚泥脱水機 処理量 10m ³ /時×2 台 汚泥搬送、薬品溶解設備 1 式
汚泥処理施設 (汚泥脱水設備・調質設備)	汚泥脱水機 処理量 10m ³ /時×2 台 汚泥搬送、薬品溶解・供給設備、汚泥供給設備 1 式
付帯設備 (脱臭設備)	脱臭設備 (活性炭吸着塔及びオゾン酸化装置等) 1 式：汚泥処理棟
水処理施設 (躯体・付帯設備)	なし
ポンプ場施設 (躯体・付帯設備)	建築工事、耐震化工事 1 式：家際雨水ポンプ場 建築工事、耐震化工事 1 式：浜田中継ポンプ場
電気計装設備	受変電設備、負荷設備、自家発電設備 1 式：水処理電気棟 受変電設備、負荷設備 1 式：汚泥処理棟 受変電設備、負荷設備 1 式：家際雨水ポンプ場 受変電設備、負荷設備 1 式：汚泥処理棟 受変電設備、制御電源及び計装用電源設備、負荷設備、計測設備、監視制御設備 1 式：家際雨水ポンプ場 受変電設備、制御電源及び計装用電源設備、負荷設備、計測設備、監視制御設備 1 式：浜田中継ポンプ場

b) 施設の長期的な改築の需要見通し

赤：変更前

黒：変更後

改築の需要見通し (年当たりの概ねの事業規模の試算)	試算の対象時期	試算の前提条件
年当たり 3.8 億円 年当たり 3.6 億円	概ね 30 年後 概ね 50 年後	平成 29 年度～平成 56 年度 (30 年間) の試算額 令和 3 年度～令和 52 年度 (50 年間) の試算額 機械設備は目標耐用年数概ね 40 年で改築 目標耐用年数を管路施設 75 年、 土木・建築施設 75 年、機械・ 電気設備は 40 年で改築 修繕との経済比較を行い、現実 的に投資可能な事業費である か判断した上で改築

(様式3) 財政計画書

(イ)経費の部

上段(赤):変更前
下段(黒):変更後
(単位:千円)

年次	イ. 経費の部					起債元利償還費	維持管理費	その他	合計
	建設改良費								
	管渠	ポンプ場	処理場	計	うち用地費				
H2~R5年	4,452,063	119,114	2,002,085	6,573,262	54,178	5,012,445	1,140,408	-	12,726,115
	3,766,118	119,114	1,992,801	5,878,033	54,178	4,505,733	977,356	-	12,056,351
6	-	-	-	-	-	82,733	57,385	-	140,118
7	-	-	-	-	-	69,229	57,603	-	126,832
8	-	-	-	-	-	61,172	62,826	-	123,998
9	-	-	-	-	-	52,544	58,735	-	111,279
10	-	-	-	-	-	47,660	59,643	-	107,303
11	-	-	-	-	-	42,727	59,566	-	102,293
12	-	-	-	-	-	35,633	59,799	-	95,432
残事業計	-	-	-	-	-	391,698	415,557	-	807,255
合計	4,452,063	119,114	2,002,085	6,573,262	54,178	5,012,445	1,140,408	-	12,726,115
	3,766,118	119,114	2,002,085	6,573,262	54,178	4,897,431	1,392,913	-	12,863,606

(ロ)財源の部

上段(赤):変更前
下段(黒):変更後
(単位:千円)

年次	ロ 財源の部										合計
	建設改良費						維持管理費及び起債元利償還費				
	国費	起債	他会計繰入金	受益者負担金	その他	計	下水道使用料※	他会計繰入金	その他	計	
S45~R2年	36,560,180	52,522,117	920,703	3,961,700	-	93,964,700	35,372,279	64,047,165	2,225,093	101,644,537	195,609,237
	35,666,187	51,647,817	871,792	3,923,431	-	92,109,227	35,398,690	62,273,059	2,161,155	99,832,904	191,942,131
R3	428,020	395,200	-	320	-	823,540	1,275,352	1,703,170	44,880	3,023,402	3,846,942
	116,160	140,940	-	10,100	-	267,200	1,407,600	846,516	749,580	3,003,696	3,270,896
R4	393,070	346,200	-	10,270	-	749,540	1,270,306	1,769,371	25,669	3,065,346	3,814,886
	34,570	212,730	-	9,600	-	256,900	1,401,000	876,237	757,506	3,034,743	3,291,643
R5	227,600	207,350	-	8,550	-	443,500	1,265,167	1,600,261	18,718	2,884,146	3,327,646
	269,958	124,242	-	11,400	-	405,600	1,396,200	850,700	765,190	3,012,090	3,417,690
R6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	165,923	161,077	-	13,400	-	340,400	1,381,700	809,038	765,519	2,956,257	3,296,657
R7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	169,473	337,427	-	13,200	-	520,100	1,371,500	821,350	730,224	2,923,074	3,443,174
R8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	200,409	168,091	-	26,200	-	394,700	1,360,100	808,189	736,448	2,904,737	3,299,437
残事業計	1,048,690	948,750	-	19,140	-	2,016,580	3,810,825	5,072,802	89,267	8,972,894	10,989,474
	956,493	1,144,507	-	83,900	-	2,184,900	8,318,100	5,012,030	4,504,467	17,834,597	20,019,497
合計	37,608,870	53,470,867	920,703	3,980,840	-	95,981,280	39,183,104	69,119,967	2,314,360	110,617,431	206,598,711
	36,622,680	52,792,324	871,792	4,007,331	-	94,294,127	43,716,790	67,285,089	6,665,622	117,667,501	211,961,628

下水道使用料※関連事項

接続率: 92.9%(令和3年度:初年度) → 95.4%(令和8年度:最終年度)
講じる対策:
①接続率が低い地区を重点的とした民間委託先の職員による普及訪問や、日中会えない方への職員による夜間普及訪問を実施。
②広報紙やホームページを活用した接続勧奨の実施。
③融資あっせん制度による経済的な支援を実施。

有収率: 70.4%(令和3年度:初年度) → 71.7%(令和8年度:最終年度)
講じる対策:
①計画的な点検調査による侵入水発生箇所の特定と修繕・改築の実施。
②井戸水を使用する家庭や事業所には、実態を調査の上、井戸水の使用水量を下水道の使用水量に加算する。

その他講じる対策
本市は、平成17年11月に1市3町が合併し、下水道使用料は旧酒田市に合わせ、平成23年度に統一している。
下水道使用料は、水道料金と一括して徴収していることから、収納率は高い。

接続率: 水洗化人口52,023人÷処理区域内人口56,020人×100=92.9%(令和3年度)
水洗化人口52,960人÷処理区域内人口55,540人×100=95.4%(令和8年度)
有収率: 全体: 年間有収水量5,620,141m³÷年間汚水量7,987,295m³×100=70.4%(令和3年度)
全体: 年間有収水量5,670,118m³÷年間汚水量7,912,470m³×100=71.7%(令和8年度)
合流: 年間有収水量1,328,265m³÷年間汚水量3,268,575m³×100=40.6%(令和3年度)
合流: 年間有収水量1,218,728m³÷年間汚水量3,003,950m³×100=40.6%(令和8年度)
分流: 年間有収水量4,291,876m³÷年間汚水量4,718,720m³×100=91.0%(令和3年度)
分流: 年間有収水量4,451,390m³÷年間汚水量4,908,520m³×100=90.7%(令和8年度)

年度別事業費内訳書

上段(赤):変更前
下段(黒):変更後
(単位:千円)

年次	事業費			補助事業費			単独事業費		
	管渠・ポンプ場	処理場	計	管渠・ポンプ場	処理場	計	管渠・ポンプ場	処理場	計
R2年まで	71,472,633 69,849,215	22,492,067 22,260,012	93,964,700 92,109,227	45,355,662 44,117,886	21,741,327 22,021,682	67,096,989 66,139,568	26,116,971 25,731,329	750,740 238,330	26,867,711 25,969,659
R3年	458,540 267,200	365,000 -	823,540 267,200	454,540 267,200	200,750 -	655,290 267,200	4,000 -	164,250 -	168,250 -
R4年	323,540 256,900	426,000 -	749,540 256,900	319,540 256,900	233,300 -	552,840 256,900	4,000 -	192,700 -	196,700 -
R5年	269,500 405,600	174,000 -	443,500 405,600	265,500 405,600	94,850 -	360,350 405,600	4,000 -	79,150 -	83,150 -
R6年	- 340,400	- -	- 340,400	- 340,400	- -	- 340,400	- -	- -	- -
R7年	- 520,100	- -	- 520,100	- 520,100	- -	- 520,100	- -	- -	- -
R8年	- 394,700	- -	- 394,700	- 394,700	- -	- 394,700	- -	- -	- -
R3~R8計	1,051,580 2,184,900	965,000 -	2,016,580 2,184,900	1,039,580 2,184,900	528,900 -	1,568,480 2,184,900	12,000 -	436,100 -	448,100 -
合計	72,524,213 72,034,115	23,457,067 22,260,012	95,981,280 94,294,127	46,395,242 46,302,786	22,270,227 22,021,682	68,665,469 68,324,468	26,128,971 25,731,329	1,186,840 238,330	27,315,811 25,969,659